

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



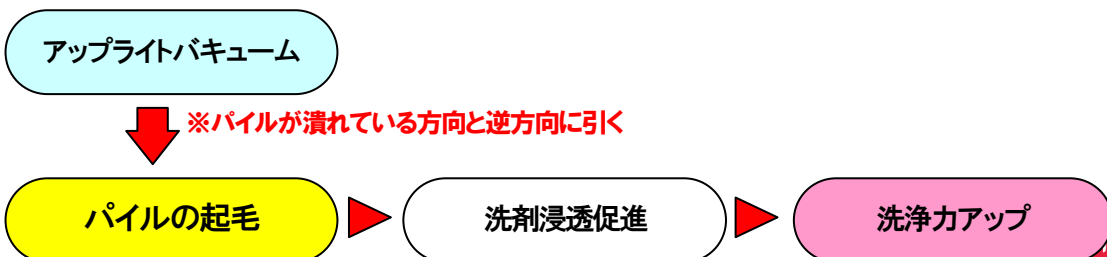
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

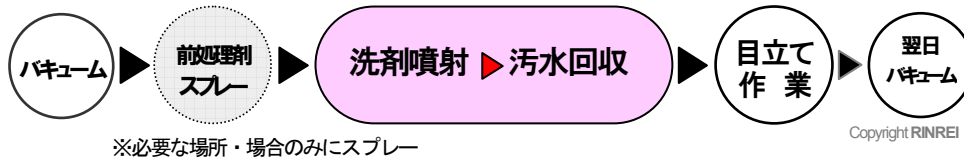
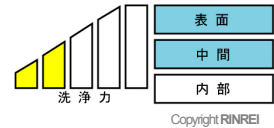
パイルが潰れたままの状態で行っても、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



4 エクストラクション方式



作業効率: 100 m²/1時間・1名
 使用洗剤: 無発泡性洗剤
 ※前処理剤はプレスプレークリーナー
 使用機材: ・エクストラクター
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)
 ・ポリッシャー、ボンネットパッド

- [長所]
- 基本的に1行程でクリーニングが行なえる。
 - 比較的洗浄性に優れ、パイル内部の土砂除去能力に優れる。
 - 狭い部分のスポットクリーニングにも適する。
 - 物理的な力を用いないため、カーペットパイルを傷めない。(ドライボンネットを実施しない場合)
- [短所]
- 単に洗剤と噴射力に頼った洗浄のため、汚れが進行してからの作業では効果が少ない。
 - 水を多量に使用するため、フリーアクセスフロアには不向きである。
 - 土砂汚れが激しい箇所ではウイックバックが発生する可能性がある。

(メンテナンスポイント)

カーペットを手早く簡単に作業するのに適したクリーニング方式です。
 洗剤を水圧噴射して汚れを分離除去する方式なので、汚れの激しい部分には向いていませんが、**嘔吐物の処理や飲料のこぼし跡などのスポットクリーニング**にも適しています。作業前に汚れの多い箇所はプレスプレー液を予め噴霧器などでスプレーしておくことが重要です。
 水圧とバキューム力のみで頼るシステムなので、汚れの状況に応じて洗剤噴射時間を調節する必要があります。
汚れの多い場所は極力ゆっくりと、汚れの少ない場所は普通にウオンドを引くようにします。
 また、1パス目は洗剤噴射をしながら、2パス目は洗剤を噴射せずにウオンドを引きます。汚れが落ちにくい場合には、同じ作業を繰り返し行います。
 作業後、乾燥までに時間がかかるとウイックバック発生の原因になるので、できるだけ汚水を回収してカーペットの湿りを少なくし、**パイルの目立てを行ってから送風**し、乾燥時間を短縮させる必要があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ペロア等	毛足長い サキノニ等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールアップ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	○	○	△	△	○	○
ウイルトン	○	○	△	△	○	○
タフテッド	○	○	○	○	○	○
タイルカーペット	○	○	○	○	○	○
コードカーペット	△	△	△	○	△	△
電着(人工芝など)	○	○	△	△	△	△
ニードルパンチ※	○ パイルの無いカーペット					

Copyright RINREI

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可

